

週日の説教

金 大烈 神父 2011年7月28日(木)

《終末 ～いつも準備する心で生きましょう～》

ご存知だと思いますが、今日の福音(マタイ 13:47 - 53)のように、聖書のあちこちで、天の国のたとえ話が話されています。そして、その天の国のたとえ話は、「人類が終りの日を迎える時はこのようになる」という『終末』の話につながっています。そのように、いつか来る全体的な終末も意識しなければならないのですが、同じように個人個人の人生の終わりのことを考えることも必要です。

さて、あちこちに出てくる『終末』の話の一番基本的なメッセージは何でしょうか。“神様は怖い存在だから気をつけなくてはいけない”ということでしょうか。簡単に言えば、“今日が無事に終わったとしても、いつも準備する心で人生を生きなさい”ということでしょう。私たちは、イエス様を通して、このような天の国のたとえ話をよく聞いています。しかし、ほとんど忘れて暮らしています。1日24時間のうち、神様の国、終末について意識する時間がどのくらいあるのでしょうか。ほとんど0パーセントでしょう。ですから聖書では、人間は愚かな存在だといつも言われています。終末の話、天の国の話は、人間にとって一番大きくて大事な内容です。しかし、私たちは、ほとんどそれを課題として考えていません。すぐ忘れてしまいます。いいえ、忘れるのでなく、考えさえしないのです。違う、と思う人がいらっしゃるでしょうか。きっと、いらっしゃらないでしょう。

今日の福音のたとえ話は、何回聞いても必要だと思うものです。明日が終りの日になっても、あさってが終りの日になっても、100年後が終りの日になっても、永久(とこしえ)に終りの日が来なくても、いつも準備する心がなければ、正しい生き方はできません。悲しい話になるかもしれませんが、私たちには、死を考えずに正しい生き方をすることはできないのです。

いつも準備すること、そして何かを選択する時にはこのような心を基準にすること、そうでなければ無駄な、虚しい道を歩んでしまうのが私たちの愚かさでしょう。

どんな時にも準備する心の中に、真の喜び、真のやりがいができることを意識しましょう。そういうことがきちんと身につけば、いらぬ名誉欲やいろいろな欲から解放される力をいただけると思います。

ありがとうございました。